

備える 3.11から

第184回 教訓どう生かす

東日本大震災では「長い復興期間をどう生きるか」が、

東日本大震災の発生から3月11日で丸10年を迎える。大震災の教訓を生かし、想定される南海トラフ地震にどう立ち向かうのか。

10年 東日本大震災を見た専門家が

東日本大震災は津波による犠牲者が多かった。広域の液化化、遠く離れた場所での長周期地震動による高層ビル揺れが

名大震災火山研究センター

山岡耕春教授



地震学の研究が得意な山岡耕春教授。山岡耕春教授を山岡耕春教授と誤記する場合があります。

やまおか こうしゅん 1958年生まれ。86年、名古屋大学大学院理学研究科博士課程を修了し、東京大地震環境学研究所助手。2007年から同大学院環境学研究所教授、専門は地震学や火山学。16～20年に日本地震学会会長を務めた。19年から地震予知連絡会会長。著書に「南海トラフ地震」など。

地震のサイクル 理解必要

変動も非常に重要なテーマになった。2000年代に南海トラフで、ゆっくりに断層が動いて地

NPO法人レスキューストックヤード

栗田暢之代表理事



被災者の救済について話すNPO法人レスキューストックヤードの栗田暢之代表理事。名古屋市区で。

くりた のぶき 1964年生まれ。名古屋大学大学院環境学研究所修士課程を修了し、レスキューストックヤードを設け、全国各地で被災地の支援活動を展開している。東日本大震災では宮城県の七ヶ浜町に支援拠点を設け、支援のほか住民交流の場づくりにも尽力。

被災者支援 尊厳守らねば

人は、命を守るのではない。一つは災害が起きた瞬間、もう一つは被災地での生活が再開する時、あるべき生活を取り戻すことだ。被災者の尊厳を守らねば、被災者の尊厳に関わる問題も解決できない。

名大減災連携研究センター

福和伸夫センター長



南海トラフ地震は備える難題をどう解決するか。福和伸夫センター長の福和伸夫教授。名古屋市区の公立。

ふくわ のぶお 1957年生まれ。名古屋大学大学院工学研究科修士課程修了後、清水建設勤務を経て名大先端技術共同研究センター教授に就任。2012年から名大減災連携研究センター長。専門は防災工学。19年に防災功労者内閣総理大臣表彰など。中部防災推進ネットワーク会長を務める。

進まぬ耐震化 意識変えよ

所で起きる、家屋密集による火災、津波に多くの犠牲者を出した東日本大震災は、三つの特徴が重なる震災となる。

が呼び掛けられているが、家は安全でないといけない。安全とは、危険の少ない場所、立地、災害に強く、室内でも対策済みであること。大都市ではどうしても狭い地域に入居し、安全な土地に家を建てることをおこなうのは難しい。